

新規事業採択時評価結果（平成27年度新規事業化箇所）

事業の概要

事業名	地域高規格道路 岡山環状道路 主要地方道 岡山赤穂線（中井～宍甘）	事業区分	地方道	事業主体	岡山市
起終点	自：岡山県岡山市中区中井 至：岡山県岡山市東区宍甘	延長	3.5 km		
<p>事業概要</p> <p>岡山環状道路は、岡山県南広域都市圏の中心である岡山市の市街地を外郭に囲む延長約40kmの地域高規格道路である。岡山赤穂線は、岡山環状道路の北東部にあたる県道原藤原線中井交差点から国道250号宍甘交差点までの3.5kmの区間を整備するものである。</p> <p>事業の目的、必要性</p> <p>主要地方道岡山赤穂線は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺路線の渋滞解消・緩和 ・事故率の高い周辺路線の死傷事故削減 ・渋滞踏切を回避することによる交通改善 ・外環状線として、他の路線と一体となって、市街地に集中する交通などを円滑に分散・誘導し、通過交通を排除して市内の渋滞緩和や主要な拠点間のアクセス強化を図る <p>全体事業費 約 341 億円 計画交通量 約27,100～31,200 台/日</p> <p>事業概要図</p>					

関係する地方公共団体等の意見

- ・地元説明会を通じて、周辺住民の合意形成が図られ、早期完成を望む声強い

学識経験者等の第三者委員会の意見

- ・岡山市の新規事業の事業評価が実施され、「妥当」との位置づけ

事業採択の前提条件

- ・費用対便益：便益が費用を上回っている
- ・手続きの完了：都市計画の告示が完了（H26.6.19）

事業評価結果

担当課：道路局 環境安全課

担当課長名：池田 豊人

費用対便益	B/C	1.9	総費用：293億円 （事業費：289億円 維持管理費：3.8億円）	総便益：543億円 （走行時間短縮便益：447億円 走行費用減少便益：65億円 交通事故減少便益：31億円）	基準年：平成26年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.6 (交通量 -10%)	B/C=2.1 (交通量 +10%)		
		事業費変動	B/C=1.7 (事業費 +10%)	B/C=2.0 (事業費 -10%)		
		事業期間変動	B/C=1.7 (事業期間 +20%)	B/C=2.0 (事業期間 -20%)		
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	◎	市街地に集中する交通などを円滑に分散・誘導し、通過交通の排除により渋滞緩和と立体交差により、渋滞踏切の回避 【主要渋滞箇所(H25.1公表)の解消・緩和】 ・周辺の主要渋滞箇所4箇所 → 整備後3箇所解消、1箇所緩和		
		事故対策	◎	事故率の高い周辺道路の死傷事故削減 【死傷事故削減】 ・周辺道路の死傷事故を削減 整備前173件/年 → 整備後124件/年（約3割削減）		
	歩行空間	—	注目すべき影響はない			
	社会全体への影響	住民生活	○	第三次救急医療施設（岡山大学病院、岡山赤十字病院）へのアクセスが強化され、岡山大学病院～岡山市瀬戸支所の所要時間（整備前44分）が短縮される		
		地域経済	○	高速交通施設（岡山IC、岡山空港など）へのアクセスが強化され、岡山空港～岡山市東区役所の所要時間（整備前67分）が短縮される		
災害		—	注目すべき影響はない			
環境	○	交通分散による走行速度の向上により、二酸化炭素排出量や大気汚染物質が削減				
地域社会	○	JR山陽本線により南北に分断されている市街地間の円滑な移動が確保される				
事業実施環境	○	都市計画の手続きが完了（H26.6.19） 地元説明会を通じて、周辺住民の合意形成が図られ、早期完成を望む声強い				

採択の理由

事業主体である岡山市が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が1.9と、便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。

また、周辺道路の渋滞解消・緩和、死傷事故が削減されるとともに、高速交通施設（岡山IC、岡山空港など）へのアクセスや、第三次救急医療施設（岡山大学病院、岡山赤十字病院）へのアクセスが強化されるなど、当該事業の必要性、社会全体への効果は高いものと判断される。

地元の気運も高まっており、協力体制などの事業実施の環境が整っている。

以上により、本事業は平成27年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率用いて基準年の価値に換算し累計したもの。